

文法 助詞1

◆助詞：活用しない付属語で、語と語の関係を示したり、さまざまな意味を添えたりする。

◆助詞の種類：次の四種類がある。

- ① 格助詞：主として体言に付き、体言とその下の語句との関係を示す。  
「が・を・の・に・へ・で・と・から・より」など
- ② 接続助詞：主として活用する語句に付き、いろいろな関係で前後をつなぐ。  
「ば・が・と・ても（でも）・けれど・ので・て（で）・ながら・のに・たり・し・つつ」など。
- ③ 副助詞：いろいろな語に付き、さまざまな意味を添える。  
「は・も・こそ・さえ・でも・ばかり・まで・しか・だけ・ほど・など・くらい・ずつ・か」など。
- ④ 終助詞：文や文節の終わりに付き、話し手や書き手の気持ちや態度を表す。  
「か・な・なあ・とも・ね・の・ぞ・かしら・よ・わ」など。

1 次の線の格助詞はどんな働きをしていますか。あとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 机の上に本を置く。
  - (2) みんなで海へ行く。
  - (3) 赤と黄の絵の具を買う。
  - (4) 犬が庭を駆け回る。
- ア 主語を示す。      イ 連用修飾語を示す。  
ウ 連体修飾語を示す。      エ 並立の関係を示す。

( ) ( ) ( ) ( )

2 次の線の接続助詞はどんな関係で前後をつないでいますか。あとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) テレビを見ながら勉強をした。
  - (2) 疲れたので、休憩をとった。
  - (3) おもしろければ読みたい。
  - (4) 練習が厳しくても、がんばります。
  - (5) 急いでやっただけで、期限内に間に合わなかった。
- ア 確定の順接      イ 仮定の順接      ウ 確定の逆接  
エ 仮定の逆接      オ 動作の同時進行

3 次の線の副助詞はどんな意味を添えていますか。あとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 小学生だって解ける問題だ。
  - (2) この仕事を終えるのに一時間もかかった。
  - (3) 子供だけ参加できる大会。
  - (4) あの人には弁護士だ。
  - (5) 車の修理に三日ほどかかります。
  - (6) 好きな果物はりんごやみかんなどだ。
- ア 題目      イ 強調      ウ 例示  
エ 程度      オ 限定      カ 他を類推させる

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

4 次の線の終助詞はどんな気持ちや態度を表していますか。あとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) さあ、一生懸命働くぞ。
  - (2) 危ないので泳ぐな。
  - (3) とても美しい湖だなあ。
  - (4) 駅まで何分かかりますか。
- ア 質問      イ 禁止      ウ 強意      エ 感動

( ) ( ) ( ) ( )

23 説明的文章(3)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

誰のものともわからない言葉よりも、本という形で著者がまとめた考えを述べてくれる言葉の方が、深く心に入ってくる。一人の著者の考え方に慣れて、次々に同じ著者の著作を読むのも、ある時期の読書としては効果的だ。そのことで読書が人と人の対話の時間になりうるのだということを知ることになる。

一日のうちで、自分と向き合う時間が何もないという過ごし方もできる。テレビを見ている時間が、典型的にそれだ。テレビの娯楽番組を見れば、自分に向き合う必要もないし、テレビはそのような隙も与えない。自分と向き合うことを主題としたテレビ番組は多くない。テレビは、自分の外側の問題に興味を喚起させる力はあるが、自分自身と向き合う時間をつくりにくい媒体だ。テレビの時間は、テレビをつくる側が管理している。どのようなテンポでどんな情報を組み合わせれば視聴者が退屈しないのかを計算しながら時間の流れをつくっている。読書の場合は、読書の速度を決めるのは、主に読者の方だ。途中で休んでもいいし、速いスピードで読みつづけてもいい。読書の時間は、読者の側がコントロールしているのである。

本のおもしろさは、一人の著者がまとめた考えを述べているにもかかわらず、言葉がその著者の身体からは一度切り離されているところにある。たとえば吉田兼好の『徒然草』を読む。兼好の身体はとうにこの世にはない。言葉は残っている。兼好の見事な論理と表現は、何百年の時を越えて、感情のひだをも伝えるようにこちらの胸に迫ってくる。

時と場所が離れた人間と出会うということは、ふだんのコミュニケーションとは違う楽しい緊張感を味わわせてくれる。

15 20

読解 1〜5・10単元の内容を確認しておきましょう。  
文法 助詞2

問一 〈指示語〉——線部「そのような隙」とは、どんな時間のことですか。文中から書き抜きなさい。

問二 〈接続語〉□にあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

問三 〈内容理解〉この文章で述べられている内容と合わないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

問四 〈要旨〉筆者は、読書のどんなところがすばらしいと考えているのか。次の□にあてはまる言葉を、それぞれ文中から書き抜きなさい。

著者の残した言葉を読むことにより、その著者の

が、と

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)~(8)は段落番号です。

1 「イソップ物語集」とは、自分を知らざる者の悲喜劇、といってもよい。おのれを知らなければ、どうして経験を生かすことができようか。経験という学校で学ぶ者は、ほかならぬ自分なのであるから。

2 じつさい、『イソップ物語』は、おのれを知らざる者の顛末集である。自分の分を心得ぬ者の破滅集である。どのページを開いても、その悲喜劇が語られていて。たとえば、百獣の王ライオンの鼻を刺し、散々苦しめて降参させて得意になった蚊が、クモの巣にひっかかって、はじめて自分のほんとうの姿を思い知る話。キリギリスのようにきれいな声で歌いたいと思つたロバが——ロバの鳴き声はきくに耐えないのである——キリギリスとおなじ食物をとれば、いい声になると思い、露ばかりすすったあげく、とうとう死んでしまったという話。自分の力を過信していたオリブの木が、嵐に立ち向かって折れてしまふ、風になびいていたアシは生き残つたという話。ワシのまねをして羊に襲いかかったカラスが、逆に羊の巻き毛に爪をとられて、羊番の子供につかまってしまう話……。

3 イソップが笑うのは、自分を正しく認識できない者、おのれについて錯覚しか持ち得ぬ者の愚かな行動なのである。

4 A、人間はどうして自分について正しい認識が持てないのか。

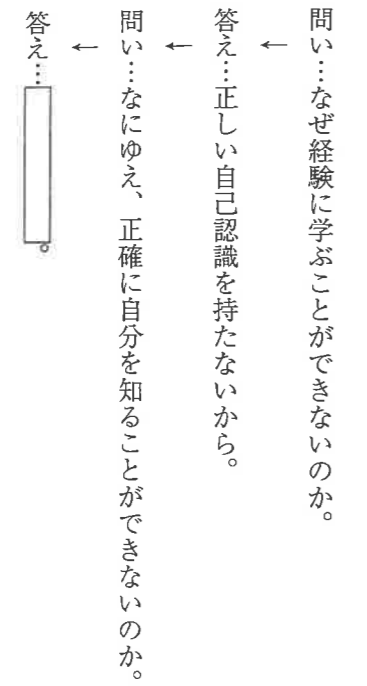
5 じつは、経験を充分に学ばないからなのだ。そもそも、自分を知るといふことは、経験を通じて知る以外にない。人生とは無数の経験の集積といつてよいが、そうした日々の経験、そして他人の経験を見聞することから、人間はそれぞれに、自分についての意識を形成していくのである。だとすれば、その経験を、どのように「自分」のなかに取り入れるか、によって、とうぜん自己認識は変わってこよう。

6 といえば、これは明らかに循環論証ではないか、と思えるかもしれない。人間はなぜ経験に学ぶことができなのかわからないのか、と問うて、それは人間が正しい自己認識を持たないためだ、といい、では、なにゆえ、人間は正確に自分を知ることができないのか、という問いに、経験を充分に生かすことが不得手だから、

問三 〈接続語〉 A にあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア あるいは
イ では
ウ なぜなら
エ だから

問四 〈内容理解〉 線②「これは明らかに循環論証ではないか」とありますが、この「循環論証」の内容を示した次の図の□にあてはまる言葉を、文中から十五字以上二十字以内で書き抜きなさい。



漢字の読み書き23

- 1 進路問題に苦悩する。
2 試合に臨む選手を激励する。
3 古い校則を廃止する。
4 起伏に富んだ一生。
5 弟の部屋は汚い。
6 注意力が散漫だ。
7 学力を蓄積する。
8 忍耐を持った選手。
9 だれにも偏見を持たない。
10 海外旅行を諦める。

と答えたのでは、たしかにどうどうめぐりとしか思えまい。しかし、じつをいうと、人間はつぎのように、このどうどうめぐりのなかに生きているのだ。

7 すなわち、人間はまず経験——赤ん坊が乳を吸うのも経験である——によって自分の意識を持ち始め、ついで、形づくられた自己意識をさらに経験によって修正し、あるいは確認し、あるいは変質させていく。そして、その自己認識がふたたび経験による学び方を向上させる、というふうには、自分を知ることと、B「こととは、不即不離の関係を保っているのだ。」

8 だから、「汝自身を知れ」というデルポイの箴言と、『イソップ物語』と35は、表裏一体をなしているといつていいであろう。イソップが説いたのは、まさしく、おのれの正体をはっきり見定めよ、という忠告であり、同時に、何より経験をしっかりと学べ、という戒めであった。

- \*1 寓話 教訓などを含んだたとえ話。
\*2 顛末 事のはじめから終わりまでのありさま。
\*3 不即不離 二つのものが、つきもせず離れもしない関係を保つこと。
\*4 汝 おまえ。
\*5 デルポイの箴言 古代ギリシアのデルポイの地にあるアポロンの神殿の柱に刻まれた言葉。箴言は戒めとなる短い句、格言のこと。

問一 〈文脈〉 次の一文は、ある段落の最後にあつたものです。もとに戻すとすると、どの段落の最後に入りますか。段落番号で答えなさい。
つまり、経験を充分に生かすことのできない人間は、けつして正確な自分の姿をつかめないことになる。

問二 〈内容理解〉 線①「イソップが笑う」とありますが、文中で挙げられている『イソップ物語』の中で、イソップに笑われている者をすべて書き抜きなさい。

A grid for writing answers to Question 2, with 10 rows and 2 columns.

問五 〈文脈〉 B にあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 経験を生かすこと
イ 経験に頼ること
ウ 経験を軽んじること
エ 経験を積むこと

問六 〈内容理解〉 この文章で述べられている内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 経験を学ぶとは、経験により自己認識を持ち始め、さらに自己認識を経験によって修正し、確認し、変質させていくことである。
イ 経験を充分に学ばないと、他人の経験しか取り入れることができず、自分の意識を形成することが難しくなる。
ウ 人間は自分の経験を充分に学んでいれば、他人の経験や意見に惑わされることなく、自分を正しく認識できるはずである。
エ 自分と他人の経験は表裏一体のものであるということを知って初めて、他人の考えを正しく理解することができるようになる。

- 11 雨で試合がエンキになった。
12 商品のネダンを下げる。
13 友達との約束をワスれる。
14 幼児がスナバで遊ぶ。
15 王のサイホウが見つかる。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。  
気分は、からだの状態感とセットになっています。  
からだの状態感というのは、たとえば気が重いか、全身が沈んでいくような感じとか、コチコチになった感じ、あるいはリラックスしている感じといった、からだから受ける印象のことです。

(中略)

陰気な場所に行くと、自分も陰気な気分になりますね。これは、場の空気に自分のからだの感じ(状態感)が侵されているためです。自分は自分、外は外と分けられないほど、からだは相互に浸透しやすいため、双方は常に交流しているのです。

人間は、意識として存在しているだけではありません。からだの状態次第で気分は変わってくるし、気分は場の雰囲気というものに侵されやすい。特に皮膚感覚は重要です。場の空気、雰囲気の影響を、からだは大変敏感に受ける。それが、生物としての絶対的条件なのです。[A]からだの状態感というものによって、場の雰囲気も作られているのです。(あ)  
からだを、皮膚の内部に留まっているものではなく、空気に伝染しているような、外に広がっているものとしてイメージしてください。(い)

③ 東洋でいう、「気」の世界です。

「気」は、気海丹田という、臍下丹田(へその下の腹内部、気が集まるとされる場所)の下の、気の世界から出ています。ここを中心として呼吸を行うことによつて、上半身がほぐれ、呼吸はいっそう深くなります。呼吸が深くなれば余裕が生まれ、反応しやすいからになります。(え)

東洋では、「気」をからだどころの状態をトータルに捉える概念として扱ってきました。一見使われどころのないようなものにも思いますが、「気」は身体的に感じるものです。(え)

日本語には、「気遣いをする」「気を配る」「気の置けない」「その気になる」というような「気」のつく言葉や語法が非常に豊富です。もちろん中国の影響

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問三 (内容理解)

線②「双方は常に交流している」について説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア からだの状態感と場の雰囲気が侵食し合つて、互いの影響を敏感に受けているということ

イ からだの状態感が場の雰囲気を侵食して、場の雰囲気がからだの状態感の影響を強く受けていること

ウ 場の雰囲気がからだの状態感に浸透し、からだは場の雰囲気の影響を敏感に受けていること

エ からだの状態感と場の雰囲気が浸透し合つて、からだの状態感が場の雰囲気の影響を敏感に受けていること

問四 (接続語)

なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア A しかし B たとえば

イ A なぜなら B ところが

ウ A そこで B しかし

エ A 逆に B ところが

オ A たとえば B なぜなら

問五 (文脈)

線③「東洋でいう、「気」の世界」とありますが、「東洋」において「気」はどのようなものと捉えられていますか。文中から二十一字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

もありますが、「気」は日本語の中でこなれている言葉です。長い時間、「気」に関する言葉を使うことによつて、社会全体が「気」のセンスを共有してきたのです。センスの問題であれば、感じられなくていいのか。いやそんなことも感じられないのは社会的能力が低すぎてダメだ、という共通認識があり、言葉を使うことで、相互に「気」の感覚を向上させ合ってきた。日本人にとって身体感覚であり、社会規範であり、生活の中で大きな比重を占めるものでした。「気」をいい状態に保ち、常に他の人と「気」が交流するよう自分を持つていくことが社会常識とされた、伝統があるのです。

[B]、近年の日本では、「気」に関する語法が激変しました。「気」を感じるセンスが落ちてきたことと、「気」に関する日常的な言語表現が激減したことは、二つセットとなっています。

人がどういう気持ちでいるか、気を遣わずに平気である。たとえば五人ぐらいいいても、一人だけ会話に加わっていない状態になれば、気遣うのがふつうです。その人に話題をちよつと持つていく、今はそういうことをしないでいいという風潮があります。利己主義的とも言えますが、私はむしろ、「気」のセンスがなくなっているためではないかと思うのです。

「気」の用法が激減したことによる影響は、大変大きいものです。一人ひとりのからだの中に「気」が循環しなくなっただけでなく、場にも「気」が通わなくなつた。つまり、からだは場が滞るようになってしまったのです。

(齋藤孝「上機嫌の作法」)

問一 (文脈) 次の一文は、ある段落の最後にあつたものです。文中に戻すとすると、(あ) (え) のどこに戻すのが最も適切ですか。記号で答えなさい。

自然なコミュニケーションが可能になるのです。

問二 (文脈) 線①「からだの状態感」とありますが、これを言い換えた表現を文中から十字で書き抜きなさい。

問六 (語句) 線④「気」のつく言葉や語法」とありますが、「気」のつく言葉の使い方として誤っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうぞお気遣いなくお申し付けください。

イ 相手の立場に気を配つて、信頼関係を築く。

ウ 彼は友人を簡単に裏切るから、気が置けない。

エ 皆からおだてられて、すっかりその気になる。

問七 (語句)

線⑤「こなれている」とは、ここではどのような意味ですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 確固たる地位を築いている

イ 多くの人に使われて、角が取れている

ウ よく浸透していて、用いられやすい

エ 他の語との調和が取れている

問八 (要旨)

「気」のありかたの変化についてまとめた次の文の [ ] にあてはまる言葉を、文中の言葉を使って四十文字以内で書きなさい。

日本では長い間、「気遣いをする」「気を配る」といった表現を使うことによつて社会全体で「気」のセンスを共有し、それを社会規範としてきたが、近年では、[ ] ため、一人ひとりのからだの中や場に「気」が通わなくなり、からだは場が滞るようになった。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- 問一 自分と向き合う時間 問二 イ 問三 エ
- 問四 まとまった考え・時・場所

解説

問一 直前の「テレビの娯楽番組を見ていれば、自分に向き合う必要もない」からとらえられる。

問二 空欄の前後に注目する。「身体」と「言葉」が逆の状態にあることを述べているので、逆接の接続語が入る。

問三 「読書の時間は、読者の側がコントロールしている」とは述べられているが、著者の考えの解釈の仕方については述べられていない。

問四 「本のおもしろさは……」とある第四段落の内容を押さえたいので、「本」「読書」について述べられている最初と最後の段落の内容も合わせて、筆者の考えをとらえる。

- 問一 [5] 段落 問二 蚊・ロバ・オリーブの木・カラス 問三 イ
- 問四 経験を充分に生かすことが不得手だから 問五 ア 問六 ア

解説

問一 「つまり」に着目し、「経験を充分に生かす」、「正確な自分の姿をつか」むとはどんなことを言い換えているのかを考える。

問二 「インソップが笑」っているのは「おのれを知らざる者」である。だれ(何)のどんな行動が挙げられているのかを押さえる。

問三 「A」の前後で話題が変わっていることから考える。

問四 「循環論証」とは、あとの「どうどうめぐり」と同じような内容。⑥段落は、「なぜ……」という問いに対して答えがあり、その答えからまた問いが生まれてくる、というように、「自己認識」自身を知ること、「経験に学ぶこと」との関係について問いと答えが繰り返されている。⑥段落を丁寧に読んで、あてはまる言葉をとらえる。

問五 前の「その自我認識がふたたび経験による学び方を向上させる」に注目。「自我認識」は「自分を知ること」だから、「B」には「経験による学び」と同じ意味を表す言葉があてはまる。

問六 筆者が述べている「経験に学ぶこと」とはどういうことかを読み取る。

漢字の読み書き23

- ① くろう ② げきれい ③ はいし ④ きふく ⑤ きたな ⑥ さんまん
- ⑦ ちくせき ⑧ にんたいりよく ⑨ へんけん ⑩ あきら ⑪ 延期
- ⑫ 値段 ⑬ 忘 ⑭ 砂場 ⑮ 財宝

解説

1 (1) ア・イ・エは確定の逆接の接続助詞で、ウは主語を示す格助詞である。接続助詞は主に活用語に付き、格助詞は主に体言に付くことを覚えておこう。

(2) アは場所、イは人、エは時間の、それぞれ起点を示す格助詞である。ウは理由を示す接続助詞である。

2 (1) 問題文とエの「の」は「が」に置き換えられ、主語を示す。アとウは連体修飾語を示し、イは「こと」に置き換えられる体言の代用の「の」。

(2) 問題文とウは確定の順接の接続助詞。アは仮定の逆接の接続助詞。イは引用、エは相手を示す格助詞。

(3) 問題文とエは目的を示す格助詞。アは時間、ウは原因・理由を示す格助詞。イは形容動詞「きれいだ」の活用語尾。

(4) 問題文とアは原因・理由を示す格助詞。イは手段、エは場所を示す格助詞。ウは前後を接続する接続助詞。

(5) 問題文とエは確定の逆接の接続助詞。アは動作の同時進行を示す接続助詞、イとウは接尾語。

(6) 問題文とウは他を類推させる副助詞。アとエは限定、イは添加を示す副助詞。

(7) 問題文とイは限定を示す副助詞。アは何かをした直後、ウは今にも何かをしそうな状態、エは程度を示す副助詞。

(8) 問題文とウは確定の逆接の接続助詞。アは大まかな例示を示す副助詞。イは仮定の逆接の接続助詞。エは他を類推させる副助詞。

- 問一 ⑤
- 問二 からだから受ける印象
- 問三 ア 問四 エ
- 問五 からだとこころの状態をトータルに捉える概念
- 問六 ウ 問七 ウ
- 問八 「気」に関する日常的な言語表現が激減し、また、「気」のセンスがなくなった

解説

問一 どうすることで「自然なコミュニケーションが可能になる」のかを考える。19行目からの「気」についての説明の中で、気海丹田を中心に呼吸を行うことで、呼吸が深くなり、余裕が生まれて、からだは反応しやすくなる。反応しやすいためからだは場の雰囲気にも敏感になる。当然他の人とのコミュニケーションも自然なものになる、という文脈。

問二 次の文で「からだの状態感」を説明している。

問三 5行目「からだの状態感」は、場の雰囲気と侵食し合っています。9行目「からだは相互に浸透しやすいもの」、から、「からだ」と「場」が互いに影響し合っていることがわかる。この内容に一致する選択肢を選ぶ。

問四 Aは、空欄の前に「場の空気、雰囲気の影響を、からだは大変敏感に受ける」とあり、あとに「からだの状態感」というものによって、場の雰囲気も作られている」とあり、反対の内容なので逆接の接続語が入る。Bは段落どうしの関係を読み取る。空欄の前の段落では、「気」に関する言葉を使うことによって、社会全体が「気」のセンスを共有し、「気」をいい状態に保ち、常に他の人と「気」が交流するよう自分を持つていくことが社会常識とされた伝統があることが述べられており、空欄を含む段落では、「気」に関する語法が激減し、「気」を感じるセンスが落ちてきたことが述べられているので、逆接の接続語が入る。

問五 23、24行目に「東洋では、「気」をからだとこころの状態をトータルに捉える概念として扱ってきました」とある。

問六 ウ「気が置けない」は、「気を遣うことなく、気楽につきあえる」という意味。

問七 「気」は長い時間、多くの日本人に使われている言葉で、誰でも自然と使うことができる言葉なのでウがふさわしい。ア・イ・エも「こなれている」の意味ではあるが、この文章にはふさわしくない。

問八 近年の「気」のありかたは、36、43行目にまとめられているので、この内容を字面に合うようにまとめる。

助詞2

- 1 (1) (1) ウ
- (2) (2) ウ
- (3) (3) エ
- (4) (4) ア
- (5) (5) エ
- (6) (6) ウ
- (7) (7) イ
- (8) (8) ウ